

仮想空間でアイデア募集



空き家、空き地の活用

鶴岡市ランドバンク研究所 ネット上に「バーチャル神明町」

空き家や空き地が点在する鶴岡市神明町をモデルにまちづくり計画の策定に取り組み鶴岡市などは、インターネット上に町並みを再現した仮想空間「バーチャル・プラット・シティ」を開設し、空き家利用のアイデアを募っている。まちづくりの取り組みに仮想空間を活用するのは全国初という。今月10日まで「バーチャル神明町」で、地元住民に限らず幅広い層から意見を寄せてもらう。

幅広い層の意見求め まちづくり計画策定

人口減少や高齢化などで、市街地の住宅密集地でも空き家、空き地が増えている。市や市内の不動産業者などで構成する「市ランド・バンク研究会」(阿部俊夫会長)は、密集地にある空き家や空き地の有効活用を図り、「セカンドライフ」に再現された「バーチャル神明町」。空き家、空き地の活用に関して意見を書き込むことができる。

「バーチャル神明町」の取り組みはこの一環で、響庭准教授の研究室の協力を得てサイトを開設した。空き家、空き地の有効活用について、町内会に直接は関係のない層からも、幅広く多角的にアイデアを集めようというもの。

インターネット上の仮想世界「セカンドライフ」に神明町の町並みを立体的に再現し、実際の位置とは異なるものの空き家を30棟ほど設定。バーチャル神明町を自由に歩きながら▽シェアハウス▽週末住宅・別荘▽自由に使えるコミュニティセンター▽福祉施設▽宿泊施設▽店舗などの選択肢から活用方法を考えたらうほか、住民が自分の庭の延長として使える菜園

霊置き場、駐車場、道路拡幅と歩道整備といった空き地や空き家を除去した場合の土地利用についても意見を募っている。閲覧、参加するにはインターネット環境が必要。無料のセカンドライフのサイトに登録し、意見を書き込む際は末尾に年齢と性別を記入する。寄せられた意見やアイデアも盛り込みながら神明町まちづくり計画を策定する。市などは今年2月、同計画とともに、4月1日に施行する空き家管理条例、ランド・バンク事業に関する合同の市民報告会の開催を予定しており、神明町をモデルにした計画を公表する。担当の市建築課は「神明町のまちづくり計画は、空き家や空き地が増えている他の町内会の将来的なまちづくりの指針にもしたい。そのためにも今回のバーチャル・プラット・シティの取り組みで、次代を担う若い人たちをはじめ、よの多くの

荘内日報

1月6日 発行

本社 / 〒997-0033 鶴岡市馬場 電話0235/22-XXXX

酒田支社 / 〒998-0042 酒田市二番 電話0234/22-XXXX

©荘内日報社

購読のお申し込 TEL (0235) 22-XXXX

編集局直通 TEL (0235) 22-XXXX FAX (0235) 22-XXXX

広告のお申し込み TEL (0235) 22-XXXX FAX (0235) 22-XXXX

印刷のお申し込み TEL (0235) 22-XXXX

ホームページ http://www.shonai-nippo

JA山形農工連

酒田市砂越字上川原四番地の1
☎0114-5131100(代)